

平成 27 年度事業計画書

はじめに

平成 27 年度、大阪市博物館協会は設立 6 年目、公益財団法人としては 4 年目を迎える。これまで、大阪市から受託している博物館・美術館 5 館の管理運営は、当協会設立当時の平成 22 年度から平成 25 年度までの 4 年と平成 26 年度のみ計 5 年間の指定管理者の指名を受けた。平成 27 年度以降については平成 31 年度末までの 5 年間にわたり大阪城天守閣を除く、大阪歴史博物館、市立自然史博物館、市立美術館、市立東洋陶磁美術館の 4 館の指定管理者の指名を受けることとなった。当協会においては各種の事業を施設ごとに、また相互に連携しながら実施しており、平成 27 年度についても 4 ページ以降の事業を予定しているが、ここでは公益財団法人への移行を認定された「協会事業の位置付け」と「協会経営計画」を再確認するとともに、協会の「平成 27 年度の取り組み」について記しておきたい。

1. 協会事業の位置付け

協会事業を「公益目的事業」「収益事業等」として位置づけ、平成 24 年 4 月から公益財団法人として事業を実施している。

(1) 公益目的事業

この事業については次の 9 事業で構成されており、隣接する分野の事業を相互に連携し総合力を発揮することがより効果的であることが位置付けられている。

- ① 埋蔵文化財の発掘調査と保存科学分析事業（受託事業）
- ② 文化財や博物館関係資料の調査研究事業（自主事業）
- ③ 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用事業（自主事業）
- ④ 文化財等資料を活用した展示・公開事業（自主事業）
- ⑤ 講座等による教育普及や人材育成事業（自主事業）
- ⑥ 体験活動事業（自主事業）
- ⑦ その他活動（自主事業）
- ⑧ 文化財関連施設管理・活用事業（受託事業）
- ⑨ 大阪市立博物館・美術館管理運営事業（指定管理による受託事業）

(2) 収益事業等

① 収益事業

施設の一部を売店・食堂等として使用することで、来館者サービスの向上やその収益を公益目的事業に充てることを目的とする事業

② その他の事業（相互扶助等事業）

友の会会員に対して行う講演会等を通じて、友の会活動の推進や会員の美術・東洋陶磁に関する公益目的事業に対する理解を深めることを目的とする事業

2. 協会の経営計画

経営計画は平成 23 年 9 月に策定され、「団体のビジョン」「経営目標」等が定められている。

(1) 団体のビジョン

協会の設置目的を実現するため、次の 4 つの基本方針の下で活動することとしている。

- ① 大阪市の博物館・美術館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力を創出する。
- ② 都市大阪にふさわしい、さまざまな利用者ニーズに応えられる博物館をめざす。
- ③ 大阪市の博物館・美術館の相互連携によって総合力を発揮し、都市大阪の魅力の発信拠点をめざす。
- ④ 30 年を越える遺跡の考古学的調査を活かした確かな知識と技術にもとづき、文化財の幅広く総合的な調査研究を行い、その成果を広く発信する。

(2) 経営目標

博物館 5 施設の指定管理者として上記のビジョンに沿って、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 カ年の目標を 5 点掲げて活動することとしている。

目標 1 指定管理 5 施設全体の常設展入館者数の増加

[27 年度目標] 2,160 千人 [25 年度実績] 2,128 千人

目標 2 各館の事業成果や広く国内外の作品を紹介する特別展の充実

[27 年度目標] 年間で 15 本程度 [25 年度実績] 18 本

目標 3 講演会や体験学習等を通じた資料や研究成果の積極的公開・活用

[27 年度目標] 年間 400 回・参加 7 万人 [25 年度実績] 524 回、9.3 万人

目標 4 指定管理 5 施設全体での学校利用の促進

[27 年度目標] 延べ 3,300 校 [25 年度実績] 延べ 2,622 校

目標 5 当協会所管の各館並びに（公財）大阪科学振興協会・大阪市立大学など関係機関との連携事業の展開 [27 年度目標] 年間 80 件 [25 年度実績] 216 件

3. 平成 27 年度の取り組み

- ・昨年 12 月に提出した、平成 27 年度から平成 31 年度まで 5 年間の 4 館に関する「指定管理者指定申請書」における事業計画や、大阪市経済戦略局の「平成 27 年度運営方針（案）」を踏まえ今後の事業のあり方を検討する。
- ・上記経営計画の「(1) 団体のビジョン」を基本とし、とりわけ「都市大阪の魅力を国内外に強力に発信する」ため、博物館施設や文化財事業の発信力を高め、協会全体として「ミュージアム魅力発信事業」を推進する。
- ・広報・情報発信をはじめとする「ミュージアム魅力発信事業」の実施にあたっては、民間のノウハウを積極的に活用し、市民ニーズをふまえた、効果的な事業実施を目指す。
- ・昨年度に引き続き、「大坂の陣 400 年」を記念して、府市と府下自治体、マスコミ・交通などの民間事業者によるプロジェクトで実施される「大坂の陣 400 年天下一祭」には、協会として積極的に参画するとともに、引き続き大阪城天守閣とも連携して関連事業の実施に取り組む。

- ・協会内の博物館・美術館や大阪文化財研究所が連携し、「郷土大阪」に対する「愛着」や「誇り」を育むため、「学校の博物館利用促進」や「学校教育支援」に取り組む。
- ・協会は平成 22 年度から 3 年間外部委員による点検評価に取組み、とりわけ平成 24 年度には総合評価を実施した。平成 26 年度には改めてその後の措置状況を踏まえ、外部評価委員会による事業の点検評価を行い、すでにホームページ上に公表した。平成 27 年度においては、外部評価委員会の提言をふまえ改善を進める。

I. 大阪文化財研究所事業

35年以上蓄積した知識と経験を活かして遺跡の発掘調査と報告書作成を行い、その文化財の保存と保管、研究成果をもとに、博物館・美術館や地域団体等と連携して文化財の公開・教育普及に努める。また、各地の文化財調査機関の要請に応じて学芸員を派遣するほか、文化財の報告書作成・保存処理など各種事業に協力する。

大阪市域の文化財調査受託事業を実施するとともに、平成27年度はその減少に対応した事業を展開する。あわせて、大阪市・大阪市教育委員会と協力して、大阪市における埋蔵文化財保護行政について情報交換などを行い、今後に備える。

なお、東日本大震災の復旧・復興支援の一環として、埋蔵文化財の調査と保護のため平成25・26年度は福島県、平成27年度は岩手県に学芸員を派遣する。

1. 埋蔵文化財の発掘調査・報告書作成等

(1) 文化財調査受託事業

大坂城跡をはじめとする市内各地の公共事業や民間開発に伴う発掘調査30件に速やかに対応し、報告書を作成して調査成果の公表に努めるほか、他地域の出土遺物の整理や実測等各種事業を受託する。

(2) 保存処理・分析事業

市内遺跡出土の文化財を保存し、博物館展示等の活用に供するほか、他地域の出土品や文化財の保存処理・分析を積極的に受託する。

(3) 文化財関連施設の管理事業

埋蔵文化財収蔵倉庫の維持管理等、出土品を良好な状態で保存・管理するとともに、地域の文化資産として普及事業を通じた活用を図る。

2. 保存科学分析技術の開発と文化財資料への応用

金属製品・木製品等、市内発掘出土品の保存処理・理化学的な分析を行う。当研究所開発によるトレハロース含浸処理法をより高い精度にするため、継続的に研究を推し進める。

昨年は研究会開催や研究発表を5回行い、更にトレハロース含浸処理法の注目が高まっていることから、本年も学会発表に加えて大阪等数箇所で開催し、普及に努める。

また、保存処理後の資料は博物館・美術館の展示等で活用し、文化財の公開に関する事業を積極的に実施する。

3. 文化財に関する研究

科学研究費助成事業を始めとする外部資金の獲得に努め、学芸員による文化財や考古学、歴史学に関する共同研究や国際交流を進め、講演会や研究紀要の刊行等で成果を公表する。

これまでの基盤研究の成果である地理情報システム(GIS)を使った市内各地の発掘調査で得られたデータの標準化と蓄積により、自然環境の復元と遺跡の時空間的な構造と特性

の解明をさらに進める。その成果は日々の調査研究に反映させるとともに、研究紀要や情報誌、ホームページのほか、大阪歴史博物館における展示に活用することで効果的に公表する。

また、韓国の財団法人嶺南文化財研究院をはじめとする、東アジア・ヨーロッパ等の海外研究機関や研究者との国際交流を進め、大阪の歴史と文化財の研究に資する。

4. 教育・普及事業

(1) 発掘調査による資料の活用

発掘調査の成果を直接多くの市民に公開すべく、大阪市教育委員会と協力し現地説明会を積極的に開催するとともに、出土品や写真、図等を大阪歴史博物館の速報展示や常設展内での陳列、年度ごとの調査成果を総覧する特集展示「新発見！なにわの考古学」展等で活用する。また、大阪市立の博物館・美術館や各地の文化財関連施設、博物館・美術館の展示へ協力するほか、出版社等への資料提供も行う。

また、遺跡に隣接して出土品を展示している各地域の公共・民間施設（市内30箇所の展示施設：「街角ミュージアム」）へ協力する。さらに、難波宮跡公園をはじめとする史跡や、資料の照会・見学に随時、対応する。

(2) 講座等による生涯学習および人材育成

大阪歴史博物館での「金曜歴史講座」・「大阪の歴史を掘る講演会」をはじめとする講座や催しを大阪市立の博物館・美術館と協力して実施する。また、他団体が開催する市民向け生涯学習事業に対し、企画・講師派遣で協力する。

そのほか、大学や国内外の文化財研究機関からの要請に応じて講師を派遣し、人材育成や技術指導に協力する。

(3) 地域と連携したイベント等の共催・出張展示

大阪市の博物館・美術館及び地域の団体と連携して、「難波宮フェスタ」等の市内遺跡と出土品を活用した体験イベントや「なにわの宮リレーウォーク」等の見学会を行う。また、「中央区民まつり」・「古代市（平野区）」等へ出張展示やワークショップで参加する等、地域活動に協力する。

(4) 史跡難波宮跡の活用

難波宮調査事務所を活用し、学校教育や生涯学習の要望に応じて、史跡見学対応や難波宮跡をはじめとする出土遺物展示、関連図書の公開等を実施する。

(5) 情報発信

情報誌『葦火』（隔月）等の図書の刊行・頒布を行い、当研究所ホームページや、大阪市立の博物館・美術館、地域団体と共同で制作した「なにわまナビガイド（文化庁補助金事業で開発）」等を活用して、文化財に関する各種情報や行事の発信に努める。

(6) 関連資料の収集・管理

文化財に関連する調査報告書及びほかの関連図書等の収集・管理に努め、他団体や個人の活用に供する。

(7) 他団体との連携

全国埋蔵文化財法人連絡協議会へ参加・協力するほか、同協議会近畿ブロックで構成する実行委員会に参画し、平成 20 年度以来毎年行っている『関西・考古学の日』を開催する。

5. 大阪市の博物館・美術館との連携

(1) 博物館協会内の連携による共催・協力

大阪歴史博物館において開催予定の特別展「大坂－考古学が語る近世都市－」・特集展示「新発見！なにわの考古学 2015」・「大坂出土の貿易陶磁」等をはじめ、考古学と文化財に関する事業で共催および調査・企画・出品等の協力をする。

(2) そのほか

調査・研究、展示、教育普及、広報において、大阪市の博物館・美術館をはじめとする関係機関との連携を積極的に進め、文化財に関する事業及び博物館・美術館活動の活性化に努める。

6. 東北復興支援ほか学芸員の派遣協力

文化庁および東北 3 県から全国に向けた、埋蔵文化財発掘調査のための専門職員派遣要請に応じて公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに学芸員 1 名を派遣する。

そのほか、八尾市・和歌山市等各地の文化財調査機関の要請に応じて学芸員を派遣して発掘調査に協力する。

II. 大阪歴史博物館事業

大阪歴史博物館では、大阪の歴史と文化を国内外に発信するとともに、「郷土大阪」に親しみをもち理解を深めるため、大阪市域の歴史や文化を対象とした展示や事業を中心としながらも、より広域な視点から大阪府域をカバーする歴史系総合博物館としての役割も果たすことができるよう、埋蔵文化財の展示や他の博物館等との事業連携のあり方を模索していく。また博物館への関心がより高まるよう、特別展や教育普及事業に新しい展開を図るとともに、外国からの来館者に対するサービスの向上を図る。

1. 資料の収集、保管事業

大阪の歴史と文化に関する資料の情報収集に努め、収集方針にもとづき着実に資料の収集を行う。また新規に収蔵した資料については燻蒸を実施し、最適な環境のもとで資料の保管・管理を行う。

2. 展示事業

(1) 常設展示

12万点を超える館蔵品や大阪市内の発掘調査で見つかった埋蔵文化財を活用し、計画的に展示更新を行うとともに、学芸員による展示解説、ボランティアによるスタンプラリーや体験事業(ハンズ・オン)などを実施する。

(2) 特集展示

館蔵品や最新の埋蔵文化財の調査結果にもとづき、地域やジャンル、速報性などを考慮し、大阪の歴史と文化に関わるテーマで年間6本の特集展示を開催し、リピーターの増加・定着を図る。平成27年度については、恒例の展示となっている「新発見！なにわの考古学」のほか、「修復品・新収品 お披露目展」、「中村順平と建築芸術教育」、「看板の世界—館蔵コレクションから—」、「大坂出土の貿易陶磁」、「辛基秀コレクション 朝鮮通信使と李朝の絵画」を予定している。

(3) 特別展示

①特別展「大坂 —考古学が語る近世都市—」〔平成27年4月18日～6月8日〕

平成27年は大坂夏の陣から400年目にあたる。大坂の陣は、豊臣秀吉が築いた大坂から徳川政権下の大坂へと転換する大きな節目となった。本展覧会はそれを記念し、近世都市大坂に関するこれまでの発掘成果を集大成し、豊臣から徳川の世で大坂がいかに発展・再生を遂げたのかを紹介する。

(「大坂の陣400年天下一祭」参加事業)

②特別企画展「道頓堀四百年記念 初世中村鴈治郎 ―上方歌舞伎の巨星―

〔平成27年7月1日～8月23日〕

平成27年は、道頓堀開削400年であるとともに、初世中村鴈治郎（1860～1935）の没後80年にあたり、四代目中村鴈治郎が襲名される年でもある。初世鴈治郎は、芝居町として発展した道頓堀で明治初期から昭和初期にかけて活躍し、和事の名手として絶大な人気を誇った。その芸と人を通して、活気に満ちた上方歌舞伎の様子と懐かしい道頓堀の雰囲気、大阪の世相を振り返る。

③特別展「海峡を渡る布 ―初公開 山本發次郎染織コレクション ふたつのキセキ―

〔平成27年9月9日～10月18日〕

本展覧会は、大阪新美術館建設準備室所蔵・山本發次郎コレクションに含まれる染織コレクションを一堂に展覧する初めての機会となる。山本發次郎が300点に及ぶ染織品を戦前期に蒐集した“軌跡”、そしてそれらのコレクションが戦渦をまぬかれて今日に伝来した“奇跡”、ふたつの“キセキ”をキーワードに、その全貌に迫る。

④特別展「唐画もん ―武禅に閨苑、若冲も―

〔平成27年10月31日～12月13日〕

江戸時代の大阪では、中国絵画に影響を受けた唐画が人気を博した。なかでも墨江武禅（1734～1807）や林閨苑（^{りんこうえん}生没年不詳）は個性的な作風から、現在でも国内の具眼者や海外の美術館で高く評価されている。本展では彼らの優品を中心に、大阪や京都で活躍した同時代の画家―伊藤若冲や円山応挙ら―の作品も展示し、個性あふれる当時の絵画を紹介する。

3. 調査・研究事業

外部研究者を交えた難波宮や大阪学に関する共同研究、ならびに館蔵資料や博物館学に関する基礎研究を実施し、その成果を共同研究成果報告書・研究紀要・館蔵資料集として刊行するとともに、研究の内容をより充実したものとするため、科学研究費補助金をはじめとする各種の学術研究補助金など外部資金の獲得にも努める。

4. 教育・普及事業

学芸員による「なにお歴博講座」や館長との対話形式を導入した講座「館長と学ぼう新しい大阪の歴史」、外部講師による時宜に応じた内容での講演会やシンポジウム、市内の遺跡や近代建築を巡る見学会、子ども向けの体験教室等を実施し、市民や子どもたちにわかりやすくかつ水準の高い大阪の歴史・文化を学ぶことのできる機会を提供する。

5. 学校・市民等との連携

大阪市教育センターや科目別研究会と連携して小・中学校の教員研修を開催し、教員が主体となった学校による博物館利用の促進を図る。大学とは講師派遣や博物館実習の受け入れ、共同研究の実施による結びつきを強化する。さらに博物館を拠点に活動するボランティアや友の会、地域のNPO法人等との共催事業をとおして市民団体との連携を図る。

6. 情報発信、広報宣伝

ホームページの充実を引き続き進めるとともに、新しく運用を開始したツイッターを活用し、臨機応変な情報発信を行っていく。ポスター・チラシなどの印刷媒体については目を止める人の多い鉄道駅や社会教育施設への設置を重点的におこない、媒体の特質と情報へのニーズをうまく結びつける広報を展開していく。

7. 来館者サービスの向上

外国人来館者の増加に対応するため展示解説等の多言語化を進めるとともに、利用者の多い英語による年間展示予定表の作成や、特別展の詳しい内容をホームページや総合案内をとおして提供する。展示更新による常設展示の魅力向上やレストランと提携した割引サービスの実施を継続するとともに、グッズの開発にも取り組み、博物館の一層の利用促進に努める。

8. 施設の維持管理

警備・案内・券売・清掃及び設備等の保守点検を専門業者に委託して、安全・快適な施設の維持管理と運営に取り組む。

Ⅲ. 大阪市立自然史博物館事業

大阪市立自然史博物館は、地元大阪を中心とした自然に関する展示や観察会などを通じて、市民に自然をよく知り学んでもらうためのさまざまな機会を提供し、共に自然と人間のよりよい未来を考えていくことを目的としている。この基本的な考え方のもと、平成27年度は以下の項目に重点的に取り組んでいく。

- ・ 市民参加による調査活動「プロジェクトU；大阪を中心とした都市の自然に関する調査」及びこれまでのプロジェクト調査を総括し、そのまとめを活かして新しいテーマ「外来生物」調査プロジェクトを開始する。
- ・ 自主企画の特別展「たまごとたね いのちのはじまりと不思議(仮称)」を企画・実施する。展示作成も含めて市民参加型で推進する。

1. 資料の収集、保管事業

動物・昆虫・植物・化石・岩石・鉱物等に及ぶ自然史資料を、大阪を中心としつつ、それと密接に関連のある資料は、日本全国さらには必要に応じて海外にまで対象地域を広げて収集する。特に、大阪との地理的關係から東アジア～東南アジア地域を重視する。

収集した標本は、マイナス45度の低温燻蒸を基本とし、必要に応じて薬品燻蒸処理を行った後、登録して収蔵庫内に最適な環境で保存し、展示や教育活動、外部利用者へのサービス等に積極的に活用する。また、これまでも取り組んできた標本情報のデジタル化や公開を今後も進めるとともに、逐次刊行物として発行している収蔵資料目録を平成27年度も刊行する。

近年貴重な図書資料の寄贈・寄託があり、27年度も数件の予定がある。これら図書資料の目録化を進める。

2. 展示事業

(1) 常設展示

常設展の展示資料の入替えを適宜行うとともに、子ども向け解説の増設やこれまで好評であったジオラボ、子どもワークショップ、探検クイズなど来館者と直接的に対話を行う事業を一層充実させていく。

27年度は第1展示室内の「淀川のワンド」コーナーと第3展示室内の「種子散布」コーナーのメンテナンス及び展示の入れ替えを実施予定である。

(2) 特別展示

① 特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」

[平成27年3月21日(土・祝)～5月31日(日)]

中生代白亜紀(約1億4500万年前から6600万年前)のスペインの地層から見つかった肉食恐竜「コンカベナトル」と日本の肉食恐竜「フクイラプトル」が近縁な関係であることから、これらの恐竜を比較するとともに、スペインの様々な恐竜を紹介する。2010年にイギリスの科学誌「ネイチャー」で発表された、腰部分に

奇妙な突起をもち、羽毛や手足の裏の肉球のあとが残る“奇跡的”な保存状態の恐竜「コンカバナートル」の全身骨格標本をはじめ、スペインから発見されている白亜紀の様々な恐竜化石や初期の鳥類化石、そして生息環境を示す動植物の化石を多数展示する。

＜展示コーナー＞

- ・ラス・オヤス ー白亜紀前期の湿地帯ー
- ・ラス・オヤスの恐竜たち
- ・ロ・ウエコ 白亜紀後期イベリア半島 最後の巨人
- ・スペインの恐竜研究史

＜主 催＞ 大阪市立自然史博物館、読売新聞大阪本社、読売テレビ

② 特別展「たまごとたね いのちのはじまりと不思議(仮称)」

〔平成27年7月18日(土)～10月18日(日)〕

地球上で暮らす生物は、様々な環境に適応することでその形態・生活様式が異なっており、非常に多様性をもっている。たまごもそれを産む動物の生活史により様々な色・形態となり、産卵場所や産卵に至る戦略も多様となっている。また動くことができない植物では、種により子孫を広げていくために種子、果実に様々な工夫がなされている。本展示では、多様な色・形のたまごや種を展示し、様々な環境で暮らす生物の多様性や、生活史の多様性を実感できる展示をつくとともに、このような多様性が生み出される仕組みについても紹介する。

3. 調査・研究事業

博物館全体で取り組むプロジェクト調査、学芸員の個別テーマによる研究、館外研究者との共同調査研究を行うほか、市民参加による調査活動として、「外来生物に関する調査」を開始する。

基盤研究A「自然史系博物館等の広域連携による『瀬戸内海の自然探究』事業の実践と連携効果の実証」をはじめとした8件の科学研究費補助金による研究課題に継続して取り組む。さらに各種の学術研究補助金など外部資金の新規獲得にも努める。

調査・研究の成果は、学会や当館主催の学芸ゼミで発表するとともに、当館刊行の研究紀要や学会誌に寄稿する。

4. 普及教育事業

「やさしい自然観察会」・「テーマ別自然観察会」等の野外観察会と、室内実習・植物園案内・ビオトープの日・博物館たんけん隊・ジュニア自然史クラブ・ジオラボなど博物館内で行うイベント、自然史オープンセミナーや講演会、「標本づくりまつり」、「標本の名前を調べよう(標本同定会)」など多彩な事業を実施し、自然に親しみ、楽しく学べる機会を提供する。新たなメニューを開発するなど事業の充実に努める。

5. 学校・市民等との連携

総合的な学習の時間やキャリア教育など学習活動のサポート、教員向け支援プログラムの実施、教材の貸出し、TMネットワーク（自然史博物館における教員と博物館のネットワーク）による情報提供等で学校教育を支援する。

「教員のための博物館の日」を8月に実施し、博物館が進める学校教育支援事業の理解を深めてもらう。

野外観察会補助スタッフ等のボランティアを行事毎に募集するほか、月例ハイク等の自然史博物館友の会事業に協力する。自然史科学関連のNPO法人などが実施する博物館連携に関する各種事業に協力する。

11月には、大阪周辺の関連団体に呼びかけて「大阪バードフェスティバル」を開催する。

また、併施設との連携についても、積極的に進める。当館は「長居植物園」内に立地しており、互いの相乗的効果を生かしていくことを大切にしており、毎月の相互連絡会を開催するとともに、今後も「長居植物園」の事業と密接な連携・協力を図っていく。27年度には蝶の食草を植栽し、積極的に蝶を誘引し観察ができるスペースである「バタフライガーデン」を共同で開設し、観察会など普及教育事業でも活用する。

西日本自然史系博物館ネットワークの事務局館として、館相互の連携事業、展示技術の講習など研修活動を推進する。

6. 情報発信、広報宣伝

常設展の入館者増を図るため、当館のホームページを充実し、年間を通じた利用促進を図る。また、館内パンフレット、ポスター・チラシを効率的に配布し、マスコミ発信や地域情報誌掲載を含めて、博物館活動全体の広報宣伝を積極的に行う。

また、展示解説書等の出版物を刊行し、成果の公表と市民の学習支援を行う。

さらに、月例のイベントリリース、特別展などの大規模事業のリリースを市政記者クラブや科学記者クラブなどに効果的に発信する。

7. 来館者サービスの向上

魅力ある展示事業や普及教育事業の展開に努め、来館者との対話を深め、一人一人のニーズに応えられるように取り組むとともに、春休み、ゴールデンウィーク等の定例休館日の臨時開館、関西文化の日の実施等により、一層のサービスの向上を図り、利用の促進に取り組む。ホスピタリティ面では、長居植物園と連携をさらに強化し、受付案内・各種行事の共催等今まで以上にサービスの向上に取り組む。

8. 施設の維持管理

警備・案内・清掃を専門の業者に委託して、安全・快適な施設の維持管理に努める。

設備等の保守点検については、平成26年度より一括して設備管理の業務委託をしており、引き続き良好な施設の維持管理に努めていく。

IV. 大阪市立美術館事業

大阪市立美術館は、昭和11年(1936)に開館して以来、多彩な美術作品の収集につとめながら、様々な国・地域・時代・作者に関する美術の展覧会や講演会・講座を開催し、魅力のある総合美術館として大阪における「文化と美術の情報拠点」となることをめざしている。平成27年度については、シカゴ ウェストンコレクションの肉筆浮世絵を紹介する特別展「肉筆浮世絵展―美の競艶 ～浮世絵師が描いた江戸美人100選～」をはじめとする4本の特別展を開催する。また、所蔵品・寄託品によるコレクション展(平常展)では、より美しくよりわかりやすい展示となるように工夫を凝らして開催する。こうした展覧会の展示や講演・講座の開催、「あべのハルカス美術館」との連携などを通じて、市民の情操と知的好奇心を刺激し、学習支援とともに美術に対する関心を高めて、来館者の増加を図る。一方で、様々な展覧会や講演会・講座・論考などのために作品の調査・研究を行い、より一層のホームページの充実を図るとともに、新たな美術情報の発信を行う。また、作品の収集・保管・貸出をはじめ、施設と設備の維持管理にも万全を期す。

1. 資料の収集、保管・貸出等事業

日本や中国で制作された絵画・彫刻・工芸などを中心に、寄贈等による館蔵品と社寺や個人から預かる寄託品のさらなる収集に努める。また、それらを適切に保存・管理するための収蔵環境や、照明・展示ケースなどの展示環境を整えて作品を適切に収蔵する。あわせて、コレクション展(平常展)や特別展・特別陳列などで展示するとともに、貸出しによる他館の展覧会への出品や、他の研究機関などへの観覧に供する。

2. 展示事業

国宝、重要文化財の勸告承認出品館及び公開承認施設として、館蔵品や寄託品等の作品をより広く市民の方々に展示することに努める。そのため、一定のテーマによるコレクション展(平常展)の開催、館独自の企画に基づいて特別に所有者から作品を借用する大規模な特別展の開催、マスコミなどの共催者とともに開催し、日本の各地を巡回する多様な内容の特別展の誘致などに努める。これらの展示事業を通じて、市民の文化や情操・教養の向上とともに、学術の発展に寄与することを目指す。

(1) コレクション展(平常展)

市民をはじめ来館者の美術に対する関心を高めるため、館蔵品と寄託品から構成されるコレクション展を開催する。コレクション展は、当美術館活動の根幹と位置づけ、ホームページ等による広報をさらに充実する。

また、さまざまな小テーマを設定し、日本や中国の美術の楽しさを実感できるような展示を行う。あわせて、最新の学術的知見を反映させる。

(2) 特別展

学芸員の調査研究の蓄積を基礎に、利用者のニーズを踏まえながら魅力あるテーマを設

定し、特別展を開催する。全国を巡回する集客性が高く充実した内容の展覧会を誘致する。

①「肉筆浮世絵―美の競艶 ～浮世絵師が描いた江戸美人 100 選～」

〔平成 27 年 4 月 14 日 (火) ～6 月 21 日 (日)〕

日本美術コレクターのロジャー・ウェストン氏の収集品の中から世界有数の規模と質を誇る肉筆浮世絵コレクションを日本に里帰りさせて初公開する。葛飾北斎など 50 人を超える絵師の多彩な作品を通して、江戸初期から明治にいたるまでの肉筆浮世絵の歴史を系統だって紹介する。

②「第 61 回全関西美術展」

〔平成 27 年 7 月 14 日 (火) ～7 月 26 日 (日)〕

大阪の芸術振興を図るため、昭和 16 年に「大阪市展」として発足した日本画・洋画・彫刻・工芸・書の 5 部門の公募展で、入選作品と招待作家の作品をあわせて展示する。

③「二科 100 年展」

〔平成 27 年 9 月 12 日 (土) ～11 月 1 日 (日)〕

二科展が平成 27 年に 100 周年を迎えるのを記念して開催される名品展。坂本繁三郎、村山魁多、安井曾太郎、岸田劉生、東郷青児、萬鉄五郎、関根正三らをはじめ、二科会の 100 年の変遷を名品の数々によって紹介する。

④「改組 新 第 2 回日展」

〔平成 28 年 2 月 20 日 (土) ～3 月 21 日 (日)〕

昨年度に様々な問題点の指摘を受け、組織改革を行い「改組 新 第 1 回」として開催され、今年度も日展所属の作家の作品やその年の入選作品による基本作品と、大阪・奈良・和歌山・兵庫の 4 府県の地元作家の入選作品を併せて展示する。

3. 調査研究事業

開館以来の調査研究活動の実績をもとに、他の博物館施設や各学会との連携を行って独自企画の展覧会を実現させ、講演会・シンポジウムなどを開催するとともに、国内外の各種学術雑誌や大阪市立美術館発行の図録・紀要などに論文やエッセイなどを掲載する。

また、平成 25 年度に科学研究費助成の申請対象研究機関として指定を受け、外部資金を活用しながら研究を進め、その成果を積極的に発表し、今後のさらなる学術発展に寄与する。

4. 教育・普及事業

大学との連携事業として博物館学の実習生の受け入れや将来学芸員を目指す大学院生を対象としてインターン（研修生）研修を実施し、あわせて教職員などへの研修も実施する。また、美術の鑑賞学習などの学校行事にも学芸員が対応し、教員からの美術教育への相談に応じながら、児童・生徒に美術に関する充実した学習の機会を提供するとともに教職員研修等も実施する。さらに、小中学生や市民を対象とした絵画制作などの体験学習会「美術館へ行こう」を春・夏・冬にそれぞれ開催する。

5. 学校・市民等との連携

各種市民団体による見学会を誘致し、また作品解説等を行なって市民が美術により広く触れる機会を提供するほか、各種団体との協働に努め、幅広い市民ニーズに対応できるよう様々な検討と実践に努める。また、天王寺区役所、浪速区役所や新世界地域の団体と連携した、コンサート等のイベントを開催し、地域との協働に努める。加えて民間企業と例年実施している障がい者のための特別鑑賞会の実施にも取り組んでゆきたいと考えている。

大坂の陣400年関連事業として、茶臼山を舞台とした「大坂冬の陣・夏の陣」の各種イベントを天王寺動物公園事務所や天王寺区役所と連携し取り組んでいく。

また、100周年を迎える天王寺動物園、新世界・通天閣エリア一帯の魅力創出事業として開催される各種事業を天王寺動物公園事務所や地元各種団体と連携し取り組んでいく。

6. 情報発信・広報宣伝

ホームページの一層の充実をはかり、市民や多様な利用者に対して、展覧会や各種イベント、お知らせ等の情報をリアルタイムに提供できるように努める。また、学芸員による展覧会の見所や最新の情報等を分かり易く掲載し、より多くの人々が美術館に興味や親しみを抱けるように、情報発信力を強化する。また、展覧会スケジュールや特別展・コレクション展(平常展)の情報を掲載した広報誌「美をつくし」を、年2回(3月、9月)発行するとともに、展覧会開催ごとに市内の各種施設をはじめ地下鉄などへのポスター・チラシなどを配布、さらに大阪市の各所属が発行する広報誌やメディア各社への情報提供を通じて、新聞・雑誌などの媒体で広く広報・宣伝活動を行う。

また、グーグルアートへの作品画像の提供により美術館の優れたコレクションを世界にアピールしていく。

7. 来館者サービスの向上

天王寺ゲートから美術館への案内サインや館内のサイン表示の改善をはじめ、展示品のわかりやすい説明など観覧者にやさしい環境作りを行う。また、ご意見箱や受付窓口に寄せられる利用者の要望やアンケート調査の分析結果などを職員が共有することにより、市民の生の声を的確に美術館活動に反映させ、来館者のサービスの向上に努める。

8. 施設と設備の維持管理

設備の修理・修繕については、限られた予算を有効に活用しながら、効果的な予算執行に努める。

また、作品の保護と保全に関する空調などの整備と能力の維持・向上はもとより、利用者が快適かつ安全に施設を利用できるよう常に施設を衛生的に保持し、館内外の美観保持に努める。さらに、人と機械による24時間警備を行うなど、作品と利用者にとって安全で快適な施設の維持管理に努める。

9. 美術研究所・友の会事業

美術研究所が行っている実技指導・コンクール・体験学習会「美術館へ行こう」などの事業と、友の会が実施している毎週日曜日の絵画教室「日曜洋画会」などの事業の双方を協会の自主事業と位置づけ、美術研究所・友の会運営委員会を開催し、双方の有機的な連携を図りながら、技術の向上と美術の振興に寄与する。

V. 大阪市立東洋陶磁美術館事業

東洋陶磁美術館は、大阪市が世界に誇る「安宅コレクション」「李秉昌コレクション」などの東アジアの陶磁器コレクションを収蔵・展示する陶磁器専門美術館である。優れた館蔵品による平常展示を、より多くの市民に紹介することによって、東洋陶磁の魅力をアピールし、市民の文化や教養の向上に寄与することに努めている。また、市民からの要望が高い分野の美術工芸品を紹介することにより、陶磁器愛好家にとどまらない利用者層の拡大もめざしており、平成27年度は、中国の美術品である「唐物」が時代や美意識の変遷によって、その概念が変わり中国だけではなく韓国や他の国々の美術品も含むようになっていくさまを、多くの茶人たちの美意識を背景に紹介する。さらに、韓国の最新の水中考古学によって発見された高麗青磁に関する特別展を、韓国国立海洋文化財研究所の協力を得て日本で初めて開催する。これらの事業を広報普及活動により積極的に情報発信し、広く市民に観覧の機会を提供する。

1. 資料の収集・保管事業

収蔵資料を基に、より特色のある質の高いコレクションの形成のため高い専門性を生かして効果的、効率的な収集計画を作成する。また、芸術的あるいは資料的価値の高い作品の寄贈受入に努める。それらを適切に保存・管理するため、収蔵環境を整え資料の保全を図る。

さらに、東洋陶磁その他これに関する研究資料、文献、写真等を収集・整理し、東洋陶磁の研究拠点として充実を図る。

2. 展示事業

(1) 平常展（常設展）

安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁の中から代表的作品を中心に約300点をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示する。あわせて、沖コレクションの鼻煙壺約100点を展示し、陶磁器以外にも中国の美術工芸品を紹介する。

また、平常展に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示を次のとおり開催する。

① 「東洋の青花磁器」 イ・ビョンチャン [平成27年7月11日(土)～8月23日(日)]
館蔵の中国、韓国、日本、ベトナムの青花約20点により、多彩な魅力を紹介する。

② 「中国青磁の美」
[平成27年9月5日(土)～11月23日(月・祝)、12月5日(土)～平成28年1月31日(日)]
館蔵の中国の青磁約20点により、中国青磁の世界を紹介する。

(2) 特別展

① 「大坂の陣400年天下一祭参加事業」 特別展「黄金時代の茶道具—17世紀の唐物」
[平成27年4月4日(土)～6月28日(日)]

日本は、古くから海外の美術品を珍重し、特に室町時代には幕府を中心に、多くの中国の美術品を「唐物」として珍重した。それに対し^{しゅこう}村田珠光が提唱した「侘び茶」により、侘びた茶道具が好まれるようになり、唐物の美意識も変化を遂げた。さらに16世紀には井戸茶碗などの韓国陶磁も珍重され、「唐物」の概念が広がり、それらの背景には、16世紀から17世紀にかけての千利休や古田織部などの茶人の台頭があり、まさに茶の湯における黄金時代と呼ぶにふさわしい時代となった。

今回の展示では、これらの茶人たちのたくまざる創意・工夫によって変化していく美意識と、「唐物」の概念の変貌を他所蔵品も含め57点でたどる。

② 日韓国交正常化50周年記念 国際交流特別展

「新発見の高麗青磁－韓国水中考古学成果展」

〔平成27年9月5日(土)～11月23日(月・祝)〕

韓国で高麗青磁研究が新たな段階を迎えている。これまでの文献調査や窯跡発掘などに加え、近年、水中考古学が大きな成果をあげている。その発端は1976年に発見された新安沈没船であった。そこからは高麗青磁が木簡とともに現れ、従来の研究では手がかりの少なかった流通の問題が、解明されてきている。本展では、新安沈没船の高麗青磁をはじめ、韓国国立海洋文化財研究所が調査した高麗青磁などを中心に、その最新の研究成果を日本ではじめて紹介する。また、海底遺物と関連のある当館所蔵の高麗青磁の名品も、あわせて展示する。

3. 調査・研究事業

東洋陶磁その他美術に関する調査研究事業として、科学研究費等の外部資金の活用も含め、中国陶磁、韓国陶磁、日本陶磁に関する研究・窯址調査等を行い、その成果を展示・講演活動等により市民へ還元するとともに、学会での研究発表などにより学術の発展に寄与する。

4. 教育・普及事業

(1) 講演会等の実施

展覧会の内容の理解促進や、調査研究の成果を還元するため講演会、講座、研究会等を開催する。

- ① 特別展などにおける外部講師による講演会の開催
- ② 講座、レクチャーなどの開催
- ③ 東洋陶磁学会、民族藝術学会などとの提携による研究会などの開催

(2) ボランティアによるガイド事業

平常展の展示期間中、土・日・祝日の午前と午後にボランティアによるギャラリーガイドを行う。平日も予約によるガイドを実施。ボランティアガイド事業の充実を図るため、学芸員が随時研修を行う。

5. 各種団体との連携

協会が運営する各館・所との連携強化を図るとともに、各種団体、学校等との連携により、効果的な広報活動と入館者へのサービスの充実を図る。また、周辺各施設と連携し、中之島地域の活性化に協力する。

6. 情報発信・広報宣伝

ホームページをより一層、充実・活用して、展覧会情報等を分かり易く掲載するなど、情報発信力を強化する。また、館案内パンフレット、年間展示予定、ポスター・チラシ、マスメディアなどにより、東洋陶磁美術館の活動を広く周知し、来館者の増につなげる。

グーグルアートなどとの提携により、優れたコレクションを世界に向けて情報発信する。

入館者に対するアンケート調査を随時実施し、入館者の要望等を事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かす。

7. 来館者サービスの向上

来館者のニーズに応じた案内サインの改善、解説などの外国語表記の充実、ボランティアによるギャラリーガイドなど、サービスの向上に努める。

8. 施設の維持管理

利用者が安全かつ快適に施設を利用できるよう全ての施設、設備の適切な維持管理を行う。
なお、平成28年2月1日(月)から3月31日(木)まで、屋上改修工事のため休館する。

9. その他事業

(1) 出版等事業

展覧会図録、館蔵品図録、関連書籍、ミュージアムグッズなどの製作・販売を行う。

(2) 友の会事業

友の会は、東洋陶磁美術館の存在意義を評価し、収集・調査・研究・学术交流等の活動を側面的に支援して、美術館の一層の発展と充実を図ることに賛同する会員で組織されている。

講演会などを通して会員へ東洋陶磁に関する情報提供等を行う一方、美術館の利用促進や普及活動などに会員の協力を求めるなど相互連携を図る。

VII. ミュージアム魅力発信事業

総務部（事業企画課）では大阪歴史博物館・大阪市立自然史博物館・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪文化財研究所とともに、協会内および関係機関・団体や学校・大学等との連携を図りながら、以下の「ミュージアム魅力発信事業」を進める。

平成 27 年度については、民間事業者等との連携を図りながら広報・情報発信を強化するとともに、「学校連携」「大学連携」についてもミュージアムの魅力を発信する具体的な取り組みを進める。

1. 広報・情報発信

各館・所の広報活動を支援するため、平成 25 年度当初に協会ホームページをリニューアルし、平成 26 年度にはより情報発信機能を高めるため、ポータルサイト「Osaka Museums」を開設した。また SNS(Twitter、Facebook)での情報発信も開始した。平成 27 年度はポータルサイトを強化し、各館所の魅力発信をさらに充実させる。今後より一層各館・所と連携し、協会として各種情報の発信を充実させる。また、新たに広報紙を発行し、展覧会の魅力や各館所の魅力を市民に分かりやすく発信する。

さらに、各館・所の広報担当者会議を充実させ、今後の「協会の広報機能」のあり方を検討するとともに、大阪観光局などの関連部局や民間事業者等との連携による情報発信の強化を図る。

2. 民間事業者との連携、民間のノウハウの活用

平成 26 年度に実施した大阪産業創造館「新規パートナー募集」事業での成果を活用して、ミュージアムの魅力発信を民間事業者と連携して取り組んでいく。とくに、民間のノウハウを積極的に活用し、市民ニーズに沿って、来館者増や各館の魅力発信において、効果ある事業実施を目指す。

3. 「大坂の陣 400 年天下一祭」と展覧会等の取り組み

平成 26・27 年の 2 年間、府市や府下市町村において「大坂の陣 400 年天下一祭」として様々な事業が実施されているが、協会としても「都市大阪の魅力を国内外に強力に発信する」機会として積極的に参画することとしている。26 年度については、大阪城天守閣における特別展「浪人たちの大坂の陣」はじめ多くの関連事業を実施するとともに、他館でも特別展「大阪遺産 難波宮」（大阪歴史博物館）や、特別展「IMARI／伊万里」（東洋陶磁美術館）などの事業に取り組んだ。

27 年度においては、大阪歴史博物館での特別展「大坂ー考古学が語る近世都市」や東洋陶磁美術館での特別展「黄金期の茶道具ー 17 世紀の唐物」をはじめ関連事業に引き続き取り組む。

4. 教育普及に関する連携

(1) 小・中学校との連携

小・中学校との連携については、引き続き学校利用促進チラシ「授業に役立つ利用ガイド」を活用して校園長会や教育研究会への積極的な広報の展開を図るとともに、教育委員会や教育センターとの連携を深める。また「小中学校の博物館利用の促進」と「学校教育支援」を推進するため、各館・所の取組みを共有し、夏休み期間中に教員をターゲットとするモデル事業「教員のための博物館の日」を実施する。また市立美術館において実施してきた、学芸員による小中学生の鑑賞会を引き続き推進する。

(2) 大学との連携

大学との連携については、大阪市立大学との包括連携協定に基づく事業の実施体制について昨年度に再構築したことから、市民向け講演会・シンポジウムの開催、学芸員養成課程の博物館学関連3講座への学芸員の出講、大学教員との共同研究などに計画的に取り組む。また、キャンパスメンバーズ制度については学生の利用促進を図るとともに、私学や専門学校等の参加校の拡大や制度の改善・拡充について検討を進める。

(3) 他館との連携

大阪市立科学館との連携については、キャンパスメンバーズのほか、講座の共催や博物館運営情報の交換などについてより一層の連携を図る。27年度からは、大阪城天守閣とも引き続き連携を図るとともに、26年度のポータルサイト「Osaka Museums」開設時に情報発信の相互連携を図った市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）も含めて、より一層ミュージアムの魅力発信に努める。

5. 点検評価

各館による自己評価をもとに、事業の成果と課題を幅広い見地から点検評価する「外部評価委員会」を平成22年度から3年間開催し、平成26年度には改めて平成24年度に実施した総合評価の措置状況を点検するとともに、これを踏まえた外部評価委員会による事業の点検評価を実施した。平成27年度においては、外部評価委員会の提言をふまえ改善を進める。